

大分県

P R E S S R E L E A S E

腸管出血性大腸菌（O157）感染症患者の発生について

1 概要

平成22年8月11日（水）津久見市内に在住する幼児について腸管出血性大腸菌（O157）感染症と診断された旨、医療機関から中部保健所に届出があった。

2 患者及び経過等

患者：津久見市内在住の幼児（男児）

症状：発熱、腹痛、下痢

〈経過〉

8月 5日（木）発熱症状出現

8月 6日（金）臼杵市内の医療機関を受診

8月 7日（土）発熱、腹痛のため医療機関を再受診
受診時に下痢症状出現

8月11日（水）腸管出血性大腸菌（O157）感染症の診断
現在、症状は既に回復している

3 保健所の主な対応

中部保健所は、家族に対して健康調査及び検便を行うとともに、感染源の調査を行っている。

4 予防方法及び発生動向

腸管出血性大腸菌感染症は、便を介して人から人に感染したり、食品を不衛生に取り扱ったために、食品を介して感染が広がることがあります。例年、夏場に腸管出血性大腸菌感染症の報告数が増加し、中には食事が原因と考えられる事例も発生しますので、感染を防ぐため以下のことに気をつけましょう。

①手をよく洗いましょう

- ・調理をする前（菌を食材や調理器具に付けないため）
- ・食肉をさわった後や生で食べる野菜をさわる前
- ・トイレの後（健康な人の便に菌が潜んでいることもあります）

②調理した食品は、速やかに食べましょう

③十分に加熱しましょう

- ・食肉やレバー等は十分に加熱してください
（中心温度は75℃以上・1分以上で菌は死滅します）
- ・焼き肉などの際は、生肉を扱うはしと食べるはしを別々にしましょう

④気になる症状があるときは、早めに医師の診断を受けましょう

- ・初期症状は「腹痛」、「下痢」等の消化器症状で、「血便」を呈することもあります

〈大分県における腸管出血性大腸菌感染症届出者数〉

	平成18年	平成19年	平成20年	平成21年	平成22年 (8月11日現在)
O157	17	24	30	61	8
O121	-	3	-	32	1
その他	17	42	4	17	5
計	34	69	34	110	14

*今回届出分
を含む

健康対策課 健康危機管理班
【電話】097-506-2673
(担当：定行)